

最 新

唱 歌 教 科 書

(伴 奏 附)

春の曙

Andante con moto.

二ハナヨリアケ ユク ハルノアケボノ
 つきよりしらむが はるのあけほの

ゲシ ノも ケムリ カリ トホクメ ナめ ビら クし
 し の め よ り め ぎ め め ら し

ミネヨリワカ ルルソラノヨコグ モツ カス
 ヤまのほほのほのまつもみゑつ もつ かす

ネグラチハナレテ ナキユクカラ ス
 みそらなあふげば かりがれたかす

ミミ ニ ツツ めー ル ヤ マ モ ト ア サ
 いへぢなさして かなきつれかへる

イッゴチサシテ カミツヨツフ タツ
 いへぢなさして かなきつれかへる

卒業の友を送る

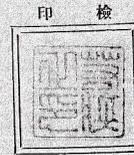
mf

トソロロニ
モヨハシ
にノ
カノキ
ゼのキ
モナニ
タヒタ
アツア
シキシ
ノキン
キカナ
ニハ
ニハ

ルカチ
アミタ
ハチコ
モヨロ
トシミ
イモキ
ニヨバ
コロラ
コヒア
ヤヨモ
イモリ
イモチ
テシキ
ミにケ
ゲレズ
ハナシ
メロ

ハハ
イモタ
ハハ
イモタ

昭和貳年三月二十日印刷
昭和貳年四月一日發行



編纂者 若狭萬次郎

印刷者 山中壽一

印刷所 大阪市東區北濱三丁目二〇番地ノ一
山中金龍堂

發行所 大阪市西區北堀江通一丁目
日本樂器製造株式會社

代表者 刀原四郎

定價金壹圓五十錢

○春の曙

大童 球溪

(ウエーベル作)

一、花より明けゆく春の曙

峯より別るる空の横雲

霞に包める山もと

朝げの烟か遠くなびく

時を離れてなき行く鴉かみす

何處をさしてか三つ四つ二つ。

二、月より白むか春の曙

山の端はのど松も見わつつ

霞に包める里村

今しも夢よりめざめぬらし

みそらを仰げばかりがね高く

家路をさしてか鳴き連れ歸る。

○美はこの四季

大童 球溪

一、山邊も野邊もかすみわたり

春風軽く袖にかをる

仰ぐそらには雲雀うたひ

笑める花には胡蝶をさる

美はし／＼春のながめ

美はし／＼春のながめ

二、青葉をわたる風のひゞき

門邊をめぐる水のしらべ

自然なる樂を奏で

神の祕事我れに語る

美はし／＼夏のながめ

美はし／＼夏のながめ

三、草葉の末にやぎる露を

眞玉と見する月の光り

人の心にかゝる雲も

はれよとばかり汝れは照るか

美はし／＼秋のながめ

美はし／＼秋のながめ

四、一夜のほごに山も丘も

時じく花に埋れはてて

見ゆるかざりは一つ色の

神のみわざの樂土なれや

美はし／＼冬のながめ

美はし／＼冬のながめ

○春野の葦

大童 球溪

一、百草萌ゆる春の野べに

ゆかりの色をけたかく見する葦の花

何を恥ぢらふ頭を垂れて。

二、若草しげる小田の畦に

優しき姿葉かげにかくす葦の花

何を思へる俯きながら。